

第11回SGRAカフェ

日中台の微妙な三角関係

講師：林泉忠（台湾中央研究院近代史研究所副研究員）

司会：李彦銘（東京大学教養学部特任講師）

日時：2018年7月28日（土）午後3時～4時30分

会場：鹿島新館・渥美財団ホール

東京都文京区関口3-5-8

[HTTP://WWW.AISF.OR.JP/JP/MAP.PHP](http://www.aistf.or.jp/jp/map.php)

会費：無料

参加申し込み・問合せ：

SGRA事務局

SGRA-OFFICE@AISF.OR.JP

03-3943-7612



Sekiguchi Global Research Association

ATSUMI INTERNATIONAL FOUNDATION

主催：（公財）渥美国際交流財団

関口グローバル研究会（SGRA）

[WWW.AISF.OR.JP/SGRA/](http://www.aistf.or.jp/sgra/)

講師略歴：

林泉忠（リン・センチュウ LIM CHUAN-TIONG）

台湾中央研究院近代史研究所副研究員、国際政治学専攻。2002年東京大学より博士号（法学）を取得、琉球大学法文学部准教授、またハーバード大学フェアバンク・センター客員研究員などを歴任。2012年より現職。著作に『「辺境東アジア」のアイデンティティ・ポリティクス：沖縄・台湾・香港』（単著、明石書店、2005年）。

講師からのメッセージ：

李克強首相の訪日により日中関係が暫く良好な方向に向かう見通しなので、2年前の蔡英文政権の発足で「黄金期」を迎えたと期待される日台関係は難しい段階に入ると考えられます。そもそも日中関係と日台関係はどのような関係にあるのでしょうか？中国にとっていわゆる「台湾問題」は対日関係に影響する3大要因のひとつであり、日本にとっての中国は経済上の最大のパートナーで最も重要な対外関係のひとつです。他方、日本と台湾は国交がないにも関わらず、互いに親近感が最も高く民間関係は最良な状態が続いています。さらに、日本でも注目される中台関係はよくも悪くも日中関係にも影響を与えています。いったい、複雑で微妙な日中台三角関係をいかに捉えればよいのでしょうか。

皆さんと一緒に考えてみたいと思います。